

ニーズに合わせた入試制度改革が 意欲ある受験生を後押しする

神奈川大学

Kanagawa University

創立100周年を前に 入試制度を抜本的に見直し

1928年、神奈川大学は横浜・桜木町を発祥の地として誕生した。法学科や貿易科の開設に続き、外国語学部や国際経営学科を創設することで、国際社会の変化にも柔軟に対応。世界に通用する人材の育成に努めてきた。2021年には国際都市・横浜の中でも、最も先進的な「みなとみらい21地区」に新キャンパスを開設。こうしたハード面の改革にとどまらず、ソフト面においても、データサイエンス教育の充実や大学発ベンチャー企業の支援などを進めてきた。現在、2028年の創立100周年に向けて様々な改革を進める中、特に注目を集めているのが、大幅な入試制度改革である。

2026年度入試から、従来のA O入試と公募制推薦入試を統合し、 2種類の『総合型選抜』を開始。10 月には出願資格を評定平均値のみ とした『総合型選抜（総合評価型）』 を、11月には2科目の適性検査と評 定平均値、書類審査の総合評価で 判定する『総合型選抜（適性検査 型）』を実施。いずれも学校長の推 薦書は不要で、多くの学部で他大学 と併願可能だ。さらに、『総合型選抜 （適性検査型）』は同一試験日併願が でき、2併願目の入学検定料は無料 に。英語外部試験の利用も開始し た。そして、『一般入試（前期）』では、 全学統一型を導入。全国各地に試験 会場を設置していることに加え、複 数学科を同一試験日に受験できるた め学内併願がしやすく、同試験でも 英語外部試験利用を可能とした。

2026年度入試から、従来のAO入試と公募制推薦入試を統合し、2種類の『総合型選抜』を開始。10月には出願資格を評定平均値のみとした『総合型選抜（総合評価型）』を、11月には2科目の適性検査と評定平均値、書類審査の総合評価で判定する『総合型選抜（適性検査型）』を実施。いずれも学校長の推薦書は不要で、多くの学部で他大学と併願可能だ。さらに、『総合型選抜（適性検査型）』は同一試験日併願ができ、2併願目の入学検定料は無料に。英語外部試験の利用も開始した。そして、『一般入試（前期）』では、全学統一型を導入。全国各地に試験会場を設置していることに加え、複数学科を同一試験日に受験できるため学内併願がしやすく、同試験でも英語外部試験利用を可能とした。

分りやすさが目に留まり 志願者数と接触者数が増加

受験生のニーズに寄り添いつつ負担軽減を遂げた入試制度改革は、結果として広く受け入れられた。例えば、『総合型選抜（総合評価型）』の全体の志願者数は、昨年度のAO入試と公募制推薦入試の合計と比較し、約1.7倍に増加。特に文系学部が高倍率となり、二番倍率が高かった経営学部は約8.9倍にまで達した。「評価のアプローチが異なる総合評価型と適性検査型を併願するケースも多く見られました」と広報担当者は語る。また、AO入試から『総合型選抜』への名称変更が受験生の目に留まり、学部間で出願資格を統一明確化したことが、受験や併願のしやすさにつながったと分

入試制度改革一覧

年度	入試制度	特徴
2026年度入試	10月 総合型選抜（総合評価型）	・出願資格は評定平均値のみ ・学校長の推薦書不要
	11月 総合型選抜（適性検査型）	・2科目の適性検査と評定平均値、書類審査による総合評価 ・入学検定料2併願目は無料 ・英語外部試験利用可能 ・学校長の推薦書不要
	12月 給費生試験	・英語外部試験利用可能 ・2025年度より 給付額を最大 880万円→ 最大 920万円に増額
	1月 大学入学共通テスト利用入試	・入学検定料2併願目は無料
	2月 一般入試（前期）	・全学統一型（全学科での同一試験日併願）の導入 ・「全学統一型」は入学検定料2併願目無料 ・英語外部試験利用可能
	3月 一般入試（後期）	・英語外部試験利用可能
2027年度入試	1月 大学入学共通テスト利用入試	・「3教科型」「4教科型」を全学部で導入 予定
	2月 一般入試（前期）	・「得意科目型」対象学部を拡大 予定

創立100周年に向け、ハード・ソフトの両面で、様々な改革を行ってきた神奈川大学。その最後のピースともいえる入試制度改革は、よりチャレンジしやすく、分りやすい内容へと変化した。受験生に寄り添う、その新制度を紹介する。

取材・文／堤 亜紀子

国際都市・横浜に 多様な教育を展開できる 環境を確立



みなとみらいキャンパス

神奈川大学では創立100周年となる2028年に向けて、様々な改革を進めてきた。その象徴ともいえるのが、2021年にグローバル企業が集積する中核地に開設した「みなとみらいキャンパス」。既存の横浜キャンパスも都市型キャンパスと呼ぶにふさわしい立地だが、みなとみらいキャンパスはビジネスの現場により近く、その鼓動を直接感じられる点が強みである。同キャンパスには、2020年に新設された国際日本学部などグローバル系の3学部が移転し、一方の横浜キャンパスには理工系の5学部が集結。これにより、学部の垣根を越えた多様な教育が展開される環境が整った。以前から産官学連携や大学発のベンチャー企業の支援などを積極的に行ってきた神奈川大学だが、横浜エリアの2キャンパス体制によって、こうした活動が今まで以上に活発に行われることが期待される。

析する。総合型選抜全体での志願者数は約4千人となり、『一般入試』と『大学入学共通テスト利用入試』も昨年度の志願者数を大きく上回った（2026年2月現在）。

なお、オープンキャンパス等のイベントでの接触者数も、3月から9月までの段階で昨年度から約1万5千人増と過去最高水準となった。なかでも、夏休み前に実施した入試説明会の参加者数は、前年と比べ約8倍となり、保護者の参加も大幅に増加。社会的な反響も大きく、高校ガイダンスやメディア取材の依頼も過去最多だったという。

次年度の入試制度改革で さらなる統一化を図る

入試制度改革は、2027年度入試でも継続して行われる。まず、一般入試の共通テスト併用型を廃止し、一部の学部のみで適用されていた『一般入試（得意科目型）』の対象学部を拡大。さらに『大学入学共通テスト利用入試』の「3教科型」と「4教科型」を全学部で導入し、国公立大学志望者の併願ニーズを取り込む。「入試制度の分かりやすさは、多くの受験生が求めていることだと今年度の改革で実感しました。次年度もより分かりやすい入試を目

指し、一部の学部のみで実施している入試方式を廃止し、可能な限り全学部学科で統一する方針です」と、さらなる入試制度改革に意欲を示す。

入学検定料の併願割引に加え 給費生への奨学金も増額

受験生の負担を見直し、2026年度入試から入学検定料の併願割引を拡充。『総合型選抜（適性検査型）』、『一般入試（全学統一型）』、『大学入学共通テスト利用入試』において、2併願目を無料にしたことで金銭的な負担が大きい地方の受験生や、費用面から国立大学を第志望とする受験生から好評を博した。

さらに、返還不要の奨学金として全国的に知られる『給費生制度』も、昨今の経済事情を踏まえ、4年間で給付される総額を最大880万円から920万円へ増額した（毎年継続審査あり）。94年の歴史あるこの制度は、多くの学生の修学支援をしており、今後も学生たちの大きなモチベーションとなることだろう。

神奈川大学は横浜エリアで2キャンパス体制を整え、学部・学科改組やカリキュラムの改編、産官学連携等の取り組みを充実させてきた。次の100年にふさわしい『知の拠点』を、意欲ある学生が活用し、今後も教育と社会がつながる好循環が生まれることに期待したい。

Information

神奈川大学



1928年に「横浜学院」として創立以来、建学の精神「質実剛健・積極進取・中正堅実」のもと、自立した教養ある社会人の輩出を行ってきた神奈川大学。キャリア教育や豊富に揃う独自の奨学金制度など、一人ひとりの成長を応援するための体制が整う。今後も11学部23学科1プログラムを擁する総合大学としてのスケールメリットを活かし、新たな時代に求められる研究・教育に取り組んでいく。（写真は横浜キャンパス）

● DATA

〒221-8686 神奈川県横浜市神奈川区六角橋3-27-1

TEL 045-481-5661 (代)

URL <https://www.kanagawa-u.ac.jp>

PR